

【データドリブンで創る健康と幸福のスマートシティ推進事業】

実施地域	岡山県津山市
実施主体	岡山県津山市
事業概要	本市では、全国平均と比較して、住民の糖尿病や肥満などの生活習慣病が顕著で、医療や介護の社会保障費が市の財政を圧迫している。特に若い世代において予防・改善が急務である。令和5年度にデータ連携基盤及び食事管理アプリを導入し連携させたが、現状、令和6年度導入予定の健康管理アプリとは連携できないため、栄養データと健康管理データを紐付けするなど効果的な施策を行うことができない状況である。この課題を解決するため、本事業において、令和5年度に整備したデータ連携基盤の共通IDと令和6年度に導入予定の健康管理アプリを連携するためのAPIを開発し連携することで、将来的には、食事と運動の可視化されたデータ両面から住民自らが健康を意識し、自ら健康になることができるようになる。また、データを収集することにより、市全体や地域、個人の状況を正確に把握し、より適切な施策の立案や健康指導を行うことができるようになり、医療費の削減や地域の人々が健やかに生活できる活力あるまちを実現する。 なお、県内では、同分野でのデータ連携基盤は存在しておらず、岡山県では、今後、県内市町村が新たにデータ連携基盤を構築する際には、岡山県が基盤の乱立抑制・共同利用を促すハブとしての役割を担い、市町村が過大な投資をせずに津山市を含め既にある基盤を有効活用していく方針としている。

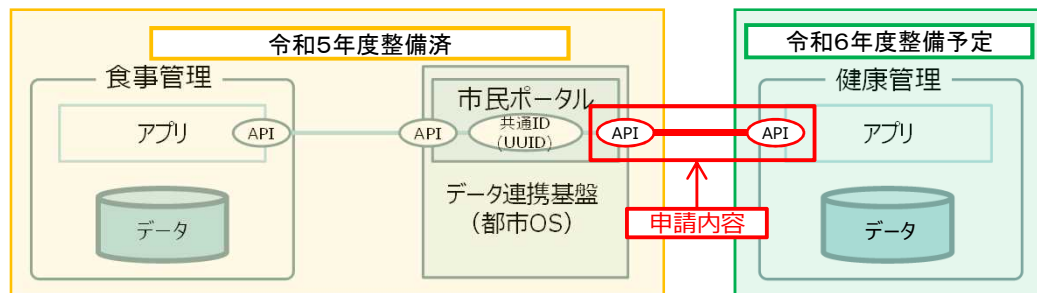
取組内容

・データ連携基盤と健康管理アプリとの連携

食事管理アプリは、地元スーパーと協力し購買データから栄養状態を推計して、不足する栄養を補える食材を提案するアプリで、データ連携基盤と連携する仕組みを構築している。（令和5年度整備済）

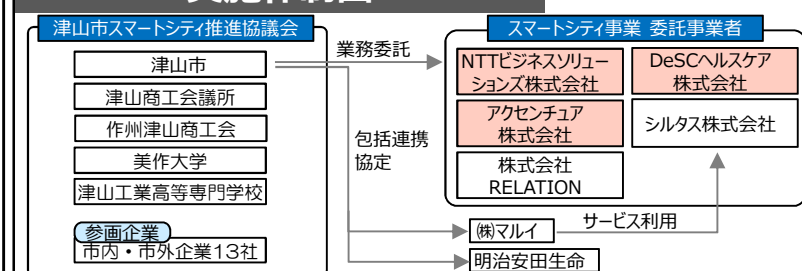
健康管理アプリは、日々の運動や生活習慣等を記録したり、健診結果から疾患リスクを可視化することなどができる。（令和6年度整備予定）

データ連携基盤と健康管理アプリを連携することにより、栄養データと健康管理データを紐付け、食事と運動の両面から分析を行い、効果的な施策を実施することが可能となる。将来的には、個人の状況に合わせた健康づくりへの支援ができるよう検討していく。



県では、今後、既に整備済みの4自治体の基盤を最大限に活用しつつ、新たに取組を始める自治体の負担が最小限となるよう横展開や連携を想定して方針を検討している。

実施体制図



システム構成図

